

地球温暖化防止事業活動報告（その2）

進む地球温暖化と経済への影響

－ スターン・レビューを読む － の学習会を共催

2006年10月30日に英国財務省は地球温暖化の世界経済への影響を予測する報告書「気候変動の経済学」（スターン・レビュー）を公表しました。

この地球温暖化の最新の知見であるスターン・レビューについての学習会を平成19年3月10日（土）アピオ大阪に於いて、「NPO法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）」の主催、「きんき環境館」及び「財団法人関西環境管理技術センター」の共催で行いました。（後援：近畿地方環境事務所、大阪府、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、大阪商工会議所（順不同））

学習会ではCASA専務理事の早川光俊氏による「最新の知見から、急速に進行する地球温暖化」について、グラフや写真で分かりやすく解説されました。

本題の「気候変動と経済への影響予測－スターンレビューを読む－」では兵庫県立大学副学長の天野明弘氏による講演がありました。その内容は衝撃的で、今後数十年の間における温暖化対策に失敗すれば、世界の年間総生産（GDP）の5～20%に相当する被害が生じる可能性があるとしています。また、温室効果ガス濃度が450ppmを越えると、50%以上の確率で平均気温の上昇が産業革命以前から2℃を越えると予測しています。



2℃を超える気温上昇は、それより低い気温上昇の場合とは、規模・範囲・質的に異なる影響が加速度的に拡大するとされています。

すでに温室効果ガス濃度は430ppmで、年間2ppm強の増加を見せており、残された時間はわずかしかありません。対応策として長期目標に向けて国際的共通ビジョンを作り上げ、各国がこれら共通目標を達成すべく、お互いに手を取り合えるような国際的枠組みを構築することが不可欠であるとされています。

当日は約100名の参加者があり、質疑では活発な意見がなされ、大盛況の学習会となり、多くの方に地球温暖化の最新情報をお伝えすることができたと思われま

（担当：企画管理部）